

前回のタウンミーティングでいただいたご意見等への対応状況

	意見内容	現在の対応状況(今後の対応方針、見通し)及びその理由	担当部局
1	余土は公民館の先駆けの地。絆を深めるためには集わなければならない、住民の集える施設を作ってほしい。	公民館の整備について、今回、余土地区まちづくり協議会等と協議のうえ、余土中学校の移転整備・跡地利用整備の実施を決定し、平成25年度6月補正予算で基本・実施設計費を計上しました。 跡地の利用については、①柔剣道場を改修・増築し公民館に転用、②耐震性能を有する特別教室棟を改修し、保育園や児童クラブ等に転用、③財源確保のため、第2運動場や校舎敷地東側部分などを売却することとしています。 先般、まちづくり協議会からも公民館整備にかかる地元案をいただきましたので、今後、内容についても協議しながら、平成28年度工事、平成29年4月供用開始を目標に取り組むことにしています。	教育委員会事務局
2	中学校の移転については、学校は地域の大切な基盤であり、危険を伴う学校の状況についてもう少し意を注いでいただきたい。	余土中学校については、余土地区まちづくり協議会等と協議のうえ、24年12月に移転整備・跡地利用整備の実施を決定し、今年度6月補正予算で基本・実施設計費を計上しました。今後、設計業務を行い、平成27年4月の工事着手、同年12月工事完成、平成27年度3学期からの供用開始を目標に取り組むことにしています。	教育委員会事務局
3	財政が厳しいなかで水問題の500億円というのはどこから出てきたのか。	水問題は、本市の最重要課題の一つであり、石手川ダムのかさ上げや下水処理水の再利用など、想定できる19の方策について、総合的に検討し、水道料金に与える影響が最も少ない黒瀬ダムからの分水を最優先に進めています。 なお、350～420億円と想定している事業費については、国庫補助金をはじめとした有利な財政措置を活用するとともに、できる限り民間の活力を利用することで事業費の縮減を図りたいと考えています。	総合政策部

前回のタウンミーティングでいただいたご意見等への対応状況

	意見内容	現在の対応状況(今後の対応方針、見通し)及びその理由	担当部局
4	地域の色々なことを知らない地域を愛することにはならない。市でそれぞれの地域の魅力をDVD化してもらいたい。	各地区では、小中学校や公民館あるいは個人の方が郷土史や写真集などを作成し、地域の伝統文化を後世に伝える活動を続けています。まちづくり協議会の中で地域の伝統文化を伝える活動に取り組んでいただければ、市としても出来る限り支援したいと考えています。	市民部
5	防災について、松山市が震災に遭うとどうい状況になるのかという情報を専門的な視点から公開と専門家の派遣をしていただきたい。	平成24年8月に内閣府より、最大震度6強、最大3.5mの津波高と従来の想定を超える数字が公表されたことから、沿岸部や島しょ部を中心に自主防災組織と連携して、標高表示板の設置を進めているほか、標高表示をインターネットで閲覧できるシステムの運用を開始しました。 また、平成25年6月10日に県が公表した被害想定調査報告での南海トラフ巨大地震の場合、松山市の最大震度は7、津波最大高は由良港で3.9mと今までの想定をさらに上回る数値が示されたことから、地域防災計画の修正をはじめ、それに併せた防災マップの修正を今年度に行う予定にしています。 さらに、災害対策指導監による各地域の被害の特徴やそれに対する備えなどについての防災指導等を実施しています。	総合政策部
6	まちづくり協議会では手に負えないほどの要望が出ており、なかなか消化できない。アドバイスをいただきたい。	まちづくり協議会では、地域の住民の皆さんや各種団体が一体となって、地域全体の課題解決や魅力を生かしたまちづくりに主体的に取り組んでいます。市としては、こうした住民が主体となったまちづくりを進めるため、まちづくり協議会に対し、地区担当職員やボランティアスタッフによる地区の課題解決に向けた取り組みへのサポートや活動の支援、また、補助金や交付金等の交付など、協議会の運営、活動を支援しています。	市民部
7	保免は何も公共機関がない。市も目配りしてもらいたい。	保免地区を運行している「松山中央公園線」については、今年度も、県、市で運行赤字の一部補填を行っており、バス路線の維持確保に努めています。	都市整備部

前回のタウンミーティングでいただいたご意見等への対応状況

	意見内容	現在の対応状況(今後の対応方針、見通し)及びその理由	担当部局
8	保免にJRの駅を作れないか。	JR四国にもご意見をお伝えしましたが、新駅設置は困難との回答をいただいております。市としても新駅設置は困難であると考えています。	都市整備部
9	市坪に児童公園(街区公園)をつくっていただきたい。	余土地区に限らず、現在の本市の厳しい財政状況から、新たな公園整備は困難ですが、今後の社会情勢の変化も踏まえ、情報交換をしていきたいと考えています。なお、公園整備についての要望については、地域の総意として「要望書」の提出をお願いします。	都市整備部
10	市道余土122号線の下水道の整備について。	ご要望の箇所の下水道整備については、現在のところ平成34年度以降の整備を予定しています。なお、接続する私道の整備の話が前進すれば、公共下水道整備の優先順位も上がりますので、引き続き地域でもご相談いただき、ご協力いただけるようになれば、前向きに検討させていただきます。	下水道部
11	中央公園を1日とか半日余土の住民が使えるようにしてほしい。	中央公園は、全市民を対象とした運動公園として整備した公園です。県を代表するスポーツ施設を擁し各競技団体からの大会開催等の希望も多く、なかなか希望どおりご利用いただけない状況でもあり、特定の日々に特定の地域住民を対象とした一般開放は困難と考えています。	総合政策部
12	余土地区にも先人がおり、俳句の道など、バスを利用した観光、地域めぐりなど観光的な活動もできるのではないか。	余土地区の皆さんが、偉人や隠れた地域資源を磨き、魅力あるまちづくりを進めることで、余土地区の情報発信を図り、多くの人に注目され、来ていただけるまちづくりに地域が主体となって取り組んでいただきたいと思います。また、そうした取り組みが各地区で行われることにより、松山市全体の魅力も向上するものと考えています。	産業経済部